

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

みんななかよく



正義の戦争

ロシアのウクライナ侵略は四年ちかくも続いています。

イスラエルのガザ侵攻による惨状は目を覆うばかりです。

どうしてこのような多くの人々を殺し、泣かせ、苦しめる戦争が、繰り返し繰り返起きるのでしょうか。

ロシアもイスラエルも正義を振りかざして、無辜の人を殺し傷つけ哭かせ痛めつけています。それは正義ではありません。

令和七年NHK朝ドラ「あんばん」のモデルのやなせたかし氏は、戦争に負けてそれまで「正義」と信じていたことが、一夜のうちに「悪」に変わってしまった体験から、本当の正義は、捨身献身の心から発するものであり、自己犠牲を伴うものと書いています。そ

れがアンパンマンになりました。

アンパンマンは、焼け焦げたマントを着て、お腹が空いて倒れている人に、自分の顔を食べさせるのです。顔がなくなってしまうことさえあります。究極の自己犠牲です。

アンパンマンの精神に最も喜び、共感した人は誰だったでしょう。

それは、まだ字も読めない幼い子どもたちだったのです。幼稚園の書棚にひっそりと置いてあったアンパンマンの絵本はボロボロになるまで貸し出され読まれていました。ところが、大人たちには大不評でした。顔を食べさせるなんて残酷だとか、アンパンが空を飛ぶなんてくだらないとか、格好良くないとか、散々だったそうです。

でも幼い子どもたちはそのようにとらえませんでした。無垢の仏心がアンパンマンの生き方に共感し、大好きで、大人の固定観念を破って、アンパンマンはこの世に出たのです。

た。（わたくしが正義について語るなら やなせ
たかし）

みんななかよく

世界中の人々がみんな仲良くすれば、戦争
は起きません。

ところが、それぞれの国には歴史の中で、
戦争により大勢の人が殺された怨みが残って
います。さらに領土問題があります。国は、
常に自分の領土を拡大しようとする野心と欲
求をもっているのでしょうか。あるいは相い
れない主義主張があります。主義主張を拡大
しようとする欲求があります。それはそれぞ
れの国の安全と結びつき、負けると体制転覆
にまで及ぶと考えられるのです。

フランスの思想家・ルソーは、「戦争は国家
と国家の関係において、主権や社会契約に対
する攻撃、つまり、敵対する国家の憲法に対

する攻撃という形をとる」（戦争とは相手国の
憲法を書きかえるもの）と言っています。第
二次世界大戦の終結にあたり、敗北したドイ
ツや日本などの「憲法」＝一番大切にしてき
た基本的な社会秩序が、英米の議会制民主主
義の方向に書きかえられることになりました。
（それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤
陽子）

だから、絶対に負けられないし、譲れない
のです。

それでは、みんな仲良くするにはどうした
ら良いでしょうか。

それには、世界中の人々がお釈迦さまにな
れば良いのです。お釈迦さまは次のように申
されています。

『実にこの世においては、怨みに報いるに怨
みを以てしたならば、ついに怨みの息やむこと
がない。怨みをすててこそ息やむ。これは永遠
の真理である。』（真理の言葉 ダンマパダ）

昭和二六年サンフランシスコで開催された対日講和会議で、スリランカのジャヤワルデネ大統領はこの言葉を引用されて賠償請求権を放棄されました。

そして、互いの主義主張を理解して認め合い、領土を承認し、傷つけ合いを止めて、仲良くしましょう。これこそ世界平和への道です。

世界につくそう

ぼくが大きくなつたなら
世界のためにつくすんだ
世界に争いがないように
世界にこまっている人や
泣いている人がないように
世界中の人々と

ありがとうと言ひあつて
喜びあつてくらしたい
世界につくそう日本人



困難な世界情勢の中で、平和を希求する日本人の心をもつて、世界につくす人が一人でも多く出て欲しいと思います。

「かれは、われを罵った。かれは、われを害した。かれは、われにうち勝った。かれは、われから強奪した。」という思いを抱かない人には、ついに怨^やみが息^やむ

実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息^やむことがない。怨みをすててこそ息^やむ。これは永遠の真理である。

(真理の言葉 ダンマパダ)